

刊夕 日十三月三

# 常警毎日新聞

定価 一紙五銭  
発行所 東京市千代田区千代田三丁目五番地  
電話 六三〇〇  
印刷所 東京市千代田区千代田三丁目五番地  
電話 六三〇〇

## 昔話

吉本茂樹

(二)

静寂なお社の森もこの不法な山賊の争ひで騒然となりました。頭はそしらぬ顔で騒然のなかに黙つてゐます。愈々争ひが解決がつかなく見えた時「さて」と頭がどなりました。愈々頭の裁断により獲物の分配が始まるのでした。

この山賊等の獲物は、いつもこうした順序をへるの頭が「さて今晩の獲物の分配は」と言ひました時に山賊共は驚きました。うしろでなにか身體をしめる様な氣持がしたからです。アツと言つた時には、頭をはじめみんなじゆうつなぎにながれてしまひました。誰がこんなめにあはしたのでしょうか！ もうお分りの事と存じます。他人の物をぬすんで来た事それ自體がゆるさるべきことでないのに、ところもあらうに神様のお社でそれを分配するとはあまりに神

様をおそれない罪深い行動です、言語に絶したやり方に神様がどうしておみのがし遊ばしませう。しかし神様は罪をにくんで人をにくみません。ひとついましてやらうと思ひましたので山賊が夢中になつてゐる間に一本の毛である御神體がグン／＼伸びましたグン／＼太りました、そして先きが三つわかれて、山ぞく共をしばつてしまつ

たのです。びつくりした、山ぞく共はにげようとあせりましたけれども、どうともするところが出来ませんでした。その盛で夜があけました。村の人達がお参りに参りましたのでいまさらお神様のありがたにお力に驚きお禮を申上げると同時に儀右衛門の家へしらせました。儀右衛門の家へ、ぬすまれた品物が全部運びこむと同時に、御神體はまた一本の毛になつて、山ぞく共をはなしてやられました。

- 【朝】味噌汁 葱
- 小付 うぐいす豆
- 【晝】金平牛蒡
- 【晚】粕漬鱈 煮物
- さつま芋 吉野煮



春の想ひ

飯村 閑舟

学校がへりが花抱いて君が来ました裏庭に顔もすこやかほゝ多めて盡きぬ話に日が暮れる。君が死なれた幾春を心變らず、またかへる鳥の口苗 空にきゝ忘れかねてはまた泣いた心やさしい母に似て頭もよいぞと言はれてもいのか短く地に落ちてゆくが姿のはかなさよ。

## 御入學・御進學

をなされたい御愛兒様へ!!  
小店にては聊か右御祝と日頃の御愛顧に酬ゆる爲左記の通り奉仕特賣致します。記念として何卒御用命の程伏して御願ひ申上ます。  
旅行と實用とを兼ねた  
責任保証附 腕時計  
定価 金七圓五十銭ヨリ  
(子玉又は皮バンド付)  
萬年筆  
定価 八十銭 ヨリ  
ビクター・コロンビア  
ポリドール  
特約店 金光堂時計店  
平町五丁目

### 小店員募集

●頭と身體の働く人  
西村屋藥局  
平二 電三

## ほねのぞき

### 桑原柔道整骨院

平町公園下電話六七四

## 市原醫院

平町田町(電一一四番)  
内科 小兒科 市原卯太郎  
外科 梅毒・淋病 市原三三男  
入院隨時

毎度特に御引立に預りまして厚く御禮申し上げます。寒かつた冬も何時の間にか過ぎ去りまして楽しい春が訪れて参りましたもふ櫻も二旬の後に迫つて来ましたすし折詰や魚折詰の品物が段々入荷致しました、何卒お花見には多少共御下命の程伏してお願ひ致します。  
乍末筆來る春と共に皆様の御健康と御繁榮をお祈り致します。

## 魚清食堂

平二警察署裏通り  
電話 六六三

## 原齒科醫院

平町土橋通り  
電話 三一三番  
院長 東京歯科 原 精一  
歯科 口腔外科  
レントゲン科

### 産婆看護婦 募集

願書締切 四月五日迄  
平町一丁目  
石城 産婆看護婦 學校  
平町播磨小路一番地に新築移轉す  
電話 三五七番

## 和漆器と家具は 和久井屋

平町電三丁目  
電話 四〇五番

# 中等學校入學合格者

## 見事難關を突破して

### 榮冠を擔ふ(受驗番號順)

#### 平商業學校

松井有三 水野克郎 鈴木繁雄 豊島甫二 武藤正 清水金男 下山田操 四來正 鈴木傳壽 芳賀弘文 園部勳 猪狩利雄 中軍中 根本健吉 鈴木健治 大坪久一 菅野徳一 草野高志 根本進平 鈴木繁 志賀光 政 熊出勝雄 小泉正春 逸見幹夫 遠藤鐵之助 柴田二男 高木季雄 緑川清喜 根本庄一 矢吹實 小川一夫 荒木敏夫 瀬谷雅雄 園谷稔 柴望榮 吉田満雄 大槻忠雄 高井勉 泉清康 八幡美夫 鈴木一己 篠崎芳正 新妻延雄 豊田弘 村田守 山崎實 橋本春雄 鈴木弘道 吉田正夫 飯塚康二 佐藤榮一 鈴木重次 森淳 中野紋次郎 佐藤次男 木村弘 阿部浩 志賀豊三郎 吉田義男 江尻治 中島久雄 田久徳一 若林光夫 小野忠雄 藤田信藏 大和田忠喜 永山勇 初田一夫 藤田雅敏 久野織江 野木久義 高橋不二男 松本眞平 高橋重 小山田俊夫 志賀明馬 政明 佐藤直孝 門馬政衛 齋藤正雄 飯島登司 諸橋英二 會澤三郎 渡

好忠 小谷由男 深澤徳雄 大塚勇 小松美男 伊藤利男 堤克忠 飯島賢一 松本三郎 高木利一 瀧川保夫 猪狩不二男 草野信清 松本友彌 長谷川賢太郎 吉田伴五郎 近藤正二 猪狩千代 志賀秋 金成喜八 築瀬郁一 熊谷益彦 鈴木八十八 福田重三郎 鈴木安吉 藪邊保衛 渡邊治郎 山崎春男 内蔵眞志男 武川成一 品野明 門馬富雄 博

#### 磐城高等女學校

坂本静子 大和田千代子 柴田敏子 阿部芳野 猪狩サク子 荒川スエ川 隅艶子 吉田光子 篠崎八重子 小湊秀子 柳内千枝子 力丸榮子 齋藤シウ 金子トミ子 片寄一枝 鈴木ミサ 佐川ハツ 長谷川淳子 鈴木富枝 織内フミ 菅本幹子 上野代宮子 片寄愛子 遠藤良子 新妻ハル子 鯨岡久 佐久間喜和 阿久津キン 菊池常 伊藤美都恵 扇藤萬子 國井アキ 山崎恒代 樋口スミ子 西山秀子 米澤富美子 赤津みち 小田りさ 佐藤芳子 佐藤喜武子 鈴木ミサ

寺正 大須賀ツネ 高木ヨシ子 松石重子 佐藤幸子 鈴木スエ子 鶴沼久仁子 加納静枝 酒井良子 吉田富子 猪狩敏子 佐藤光子 永山敏子 松本キン 三浦榮子 水野慶子 加澤千代子 佐藤良子 田村康子 柳内玉枝 原つね子 佐藤眞志子 小林春子 門馬文子 吉田ミヨ 田子玉江 丸山照子 鈴木良子 根本洋子 永久保君枝 西連寺一子 横山タカ子 江尻朝子 高橋さみ 内山静子 菊地恭子 皆川藤子 田久嘉久子 土井敏子 田仲カ子 今井久子 高橋陸奥子 齊藤キイ 蟻波フミエ 草野幸子 立花勝江 佐藤マコ子 阿部直子 佐々木マコ子 坂本キヨ 増子静枝 鈴木米子 泉美代子 松本ミサ 水品淑子 志賀恭子 大井山淑 柏原敬子 大樂恒子 堀越秀子 若松慶子 梅原武子 吉田貞子 鈴木タマ子 石井ツギ子 志賀安 荒垣律子 志賀絹子 増子フミ子 田代喜美 飯塚ミツ子 小越喜代子 菅トシ子 飯尾コウ 木村アイ子 御代喜代野 片寄ヒズ子 野口チエ子 高野喜美子 猪狩房子 遠藤和子 牧原美知子 宮島ミヨ 穴戸勝子 小島郁子 根本貞子 遠藤勝代 齋藤ヨシ子 田口富子 早川節子 關口昭子 松繁英子 坂本チエ子 立花ミツ 高倉マサエ 長島恭子 下田百合子 遠藤愛子 龜井壽子 瀧本和子

#### 磐城中等學校

藤井満恵 細野さい子 高澤ひろ子 大越信子 村山節子 大庭市子 長久保文子 佐藤テル子 岸本經子 村山佳子 櫻庭美代 中山和子 今野タイ子 大平八千代 石井文子 猪瀬千代江 小坂橋フミ 鈴木伊都 木田秀子 根本英世 鈴木久子 端山和子 武藤イソ子 佐藤幸子 和田タケノ

吉江一行 阿部甲春 吉田之衛 御代武光 鶴沼功 牛澤芳男 大泉侯司 小島弘文 大和田耕造 藁谷守 横田正二 松崎武 田中宏 康 佐藤藤一郎 城野勝人 渡邊弘道 蛭田克己 中川圭二 飯高喜義 鈴木清 加澤正 片寄文夫 柳井好文 堀重好 菊池一雄 高木允誼 鈴木勝 佐藤和彦 大友義男 宇田恒雄 野木明 高橋賢次 若松繁政 鈴木政之 佐藤豊 阿部誠 小野知昭 比佐正 常盤光男 三瓶勝男 鈴木重雄 須藤健一郎 折笠直彦 最上敏治 吉田次郎 林田浩一 新妻金一 多田井徳雄 赤塚英男 江幡孝一 鈴木次郎 櫻村壽雄 吉田政雄 坂内亨 酒井賢太郎 大越敏 松本伍郎 長谷川勝平 小田純也 四家貢 若松彌生 近藤國彌 草野二良 戸田浩吉 吉田眞一 酒井弘善 小齋實 櫻井博 林茂 堀越芳夫 鈴木尚之 佐藤新 新妻幸男 酒井二郎 磯上一男 高橋義昌 鈴木一郎 新妻胖 楠隆雄 大平五郎 小野重光 井上明 佐竹二郎 河野久司 飯島護 栗原壽男 山岸文男 永野準一 山添一男 沼田次郎 久保出眞一 山野光吉 添田計 鈴木秀二 佐藤久治 青木敬之 伊藤覺彌 岩崎宏次郎 福尾光雄 永島利重 惠原猪七男 遠藤賢吉 赤津亦一郎 片奇正男 駒木根均 菊田信夫 豊口正勝 酒井伊助 佐藤孝之助 熊谷浩二

#### 男女工見習

右至急募集す

希望者來談あれ

常磐毎日印刷會社

長橋町 電話六三〇

#### 井坂醫院

平町 田町 電話五五九番

# 歸郷職工の就職斡旋に

## 就職斡旋に 縣社會課奔走

### 昭和八一年一時操業中止

錦村昭和八一年一時操業中止の爲め復興する迄約八ヶ月間操業中止となつたので女工千五百名は一先解雇歸郷せしめる事となつたので縣社會課の井上屬は二十八日同村に出張し歸郷職工の就職斡旋を行つて居る

# 漁獲高が

## 昨年より増加

石城郡下漁村の昨年十一月十二年の第四期水産物漁獲

# 川前驛附近

## 絶対に事故防止

既報列車運轉の安全を計る爲め磐越東線川前驛附近に土砂崩壊警報器を設置する事になつた福島運輸事務所では更に今後は同驛から毎朝午前九時迄の天候気温風速雨量等を報告させ事故防止の参考資料とすることに

# 水難救済送金

江名漁業組合では去る二月四日の暴風に壹岐島沖合で難船した兵庫縣水産課所屬漁船の生死不明の乗組員七十三名に對し遺族救済金として金三十圓を送付した

# 憤怒の刃で

## 滅ッ太斬り

錦村人絹工場の火事騒ぎ中に同村字江栗居住人絹職工紺野安藏(三)は火事場に駆け付け午前五時頃歸宅した

が同居人黒崎徳(三)と自分の妻ハル(三)を道に外れた處爲を見てカッとなり持つて居た海軍ナイフで黒崎の腹部を滅ッた斬りにし黒崎が悶倒するのを見て植田署へ自首した

# 重傷者の

## 一名絶命

既報去る廿七日磐崎村警察署管内でダイナマイト發火栓の電線接続を間違ひて爆發し八名に重傷を負し附屬病院に收容手當中であ

# 散策の客舂さ合ふ

## 平驛は今月になつて

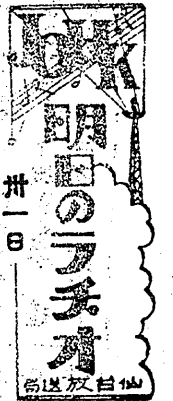
### 初めての雑沓を呈す

絶好な行樂日和に恵まれた昨二十九日の日曜は衣替へをして春の赤井嶽新舞子海岸にとビクニツク客が繰り出して當日平驛の乗客は千九百八十五名降車千六百十五名と今月になつてから最高の雑沓を呈した

# 交換手採用十名に

## 百名の志願者殺到

平郵便局の本年度電話交換手採用試験は來月五日午前九時から同局樓上で行はれ算術、國語、作文、常識等の科目を試験するが本年度採用者約十名に對し現在百名の志願者がある



今晩は南の風晴薄く 明日は南の風薄曇り

# 今晩の部

後六、〇〇 子供の時間  
お話「昔の小學校」菊地純一郎  
後六、二五 講演「中小工業の現状と工業組合工業組合」中央會理事梶原伸治  
後六、四五 「工業組合記念日に際して」宮城縣經濟部長堀口功

後九、三〇 時報「明日の話」番塚  
明日の部  
前七、〇一 基礎獨逸語講座(終)武内大造  
前七、三〇 朝の修養「言志録」終 山田準  
前九、〇〇 衛生メモ  
前九、五〇 選抜野球大會甲子園球場(定時中継)  
前一〇、三〇 家庭講座「大福物一反で親子の着物をつくる法」奥田艶子  
後一〇、〇五 管絃樂 新交響樂團  
後二、〇〇 婦人の時間

後七、三〇 趣味講演「毛越寺の延年の舞」本田安次他  
後八、〇〇 俚謠 古藤薫他  
後八、三〇 尺八俗曲(名古屋)加藤 溪水(秋田) 島山浩藏  
後八、五〇 ラヂオドラマ「演劇連夜三種第二夜」(新東京見物)水谷八重子他

# 内村教諭囑託

磐城高等女學校教諭内村雄氏は此程縣より青年學校視學委員を委嘱された

# 養兔業著しく盛ん

## 毛皮生産が三萬二千枚

石城郡内の養兔業は近年順に隆盛に向つて來てゐるが昨年中で飼育戸數五千五百十五枚である

# 通帳窃取犯人が

## 逃げ廻つた末に捕る

四倉町満山平藏方雇人本籍不明住所不定齋藤勝美(三)は同僚伊藤健三の四十圓記入郵便貯金通帳を窃取した外同様手段で江名や平町等を荒し廻り逃走したので四倉署で各地に手配中去る二十八日宮城縣石巻署に檢舉された

# 磐中上級進學

磐城中等學校卒業生中上級學校入

# 平職業紹介所報告

- 回 人を求める方
  - △コック 廿五才迄 尋卒
  - △月給十一十五圓
  - △雜役 廿才前後 尋卒
  - △給料面談
  - △配達兼農夫 廿才前後 住込給料五圓
  - △山仕事 卅五才迄 月給十五圓
  - △農夫 四十才迄 給面談
  - △女中 十八才迄 尋卒
  - △給料五圓外仕着
  - △女中 十八才以上 尋卒
  - △給面談
  - △新聞配達 卅三才迄 尋卒 月給十圓
  - △回職を求める方
    - △醬油讓造 卅一才 尋卒
    - △女工 廿二才 尋卒
    - △人絹男工 廿七才 高卒
    - △土工夫 廿三才高卒
    - △コック 卅才 高卒
    - △會社事務員 廿一才商卒
    - △事務員 卅二才農蠶校卒
    - △火夫見習 十九才 高卒
    - △事務員 廿一才 中卒



# 繞る瓦解の謎

(講談社)

悟道軒圓玉(作)  
丸尾至陽(畫)

## 八四 取出した拳銃

お花は駕昇の文太郎を待つと見てゐたが

花「それではこのお金では不足かえ」

文「さうよ、ヤイ民、てめえはこの女の度胸におどろいてありがてえのすみませんなぞといふから女はいよいよつけ上るんだ、一兩取るも二兩取るも千兩取るも罪はおなじことだ、オイ御新造、この金はみんなおもらひ申します」

と金をかき集めやうとするその手をバラリと拂つたお花。

花「オイ何をするんだえ、これはわたしのお金だよ、持主が承知をしないのに金を取れば泥棒だよ」

文「何をいやあがる、こへわれを引き出したはこの金を取るためだ、素直に渡して行けばよし、否といへば縛り上げてこの金を貰つて行くぞ、ヤ、民しつかりしろ」

民「ウムこれはお前のいふのはもつともだ目の前に大金を見ながら五十や三十貫つては歸れねえ、御新造今文太がいつた通りこの金はもらひますよ」

花「さう、欲しければみんな

な遣つても宜いが、お前がたのために入用なものならばわたしの身に取つても入用があるんだよ、おとなしくして居れば五十兩百のお金はやるが、凄せいせりふを



ならべられては二朱金一つでも施すことは出来ないよしかし折角これまで連れ込んだ、この仕事空手で歸すも氣の毒だ、死ぬまで身につくお金をあげるからそれを受け取つて歸るが宜い」といつたが帯の間へ手を入

打込むお花は右の手を打たれてバラリと七首をおとし、しめた二人が飛び着かうとするをヒラリとあとへ退り左の手がふところに入つたがズイと引き出したはヒュースケから譲られたかたみのピストル

れて引き抜いた七首キラリと光つた。

これをみて文太に民が

文「洒落たことをするな」とそれにあつた息杖を取つて左右から打つてかゝる、お花は五重の塔をうしろにして身構へたが此方はならすものとして喧嘩にはなれてゐる、それに相手は一人の女、疊んでしまへときそひかゝるをお花は身をかはしてこれをさげ手もとへ付け入らうとするを二人は飛び

花「お前がたは命はいらなにかえ

二人はこれを見るとタジ

民「何だ、それは短筒か」

花「わたしのためには守護の神様ズドンと一發この筒口をはなれたが最後、お前

がたは佛になるよ」

民「飛んでもねえものを持つてゐたな、ヤイ文太、しつかりしろ」

といつたがさすがの悪者も近よることが出来ない、お花は引金を引いた、彈丸は文太の耳をかすめて向ふへ離れた、この時うしろから駆出て来た一人の男、提燈の光りてむかふをきつと見て

○「お花さんか

花「お、お前は松さん

松「何んだつてこんなところにあるんだ、何に此奴等が、いや途方もねえ奴だ」と七首を抜いた、これを八

百松、駕昇はいよいよ驚いた前にはピストルうしろに七首、逃げやうとしても逃げることは出来ない二人

それへばつたり坐つて

民「どうぞ命ばかりはお助け下さい、お慈悲でございませす、御勘辨下さいまし」とはじめの勢ひに引きかえてガタ／＼ふるへてゐる、それを見てお花はピストルをふところに入れ、ニッコリ笑つたがその度胸には八百松も驚いた。

### 有給社員募集

- 一、地方擴張ノ爲男女十数名募集ス 固定給ノ外歩合アリ
  - 一、資格者 經驗ノ有無ニ不拘指導ス 但シ誠意奮闘家ヲ望ム 希望者ハ午前中當出張所へ面談アラレタシ
- 野村生命保険株式会社  
磐城出張所 平町長橋町四七  
主任 福島 健之

専門  
産婦人科  
花柳病科  
入院隨意

井坂 醫院  
平町田町 電話五五九番

### 春が来た!

春は カメラだ MSだ!!!

卒業記念に 初めませう 今直ぐに 進級記念に

良く寫るので評判の 暗室 不要 MS カメラ

少年用 一組三十錢より 大人用 一組一圓より

MSカメラ 特約店 いづみや玩具店 平 驛前

磐城セメント會社特約店



磐城平町五丁目 電話九・九九

- 良品廉賣に勝る商略なし
- 確實敏捷は久の生命なり

### 喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお奨め致します

平町田町六九

喜多流 仕舞曲 白土會

入會隨時 電話一二七番

### 古レコードと蓄音器買入

皆様の御家庭にて既に御不用となつたものでも何處の店よりも高價に買ひます

平町三丁目

天地堂 電話五八九番